

# 令和4年度 園の自己評価

加古川市立野口南幼稚園

(A ; 十分成果があった B ; 現状でよい C ; 一部改善要する D ; 改善を要する)

評価項目	評価の観点	評価	◎成果 △課題 ※改善策	評議員 評価
教育目標	幼児の発達や地域の実態に即し、幼稚園の特性を活かしたわかりやすい内容であったか	B	-自己を発揮し、共に育ちあう心豊かな子供の育成 - ◎身近な自然に触れ合う機会や、経験させたいこと、感じさせたいことを、職員で話し合い、育てたい姿を確認しながら進めてきたことで、子供たちの中に、自然の営みや美しさ、不思議さ、命の尊さなど、自然を大切にしようという気持ちが芽生えている。 △日々の教育や目の前の出来事の対応で精一杯になり、人格形成の基礎を培うこの時期の教育の中で、どのようなことを深く考え、子供に伝えていくかを考える機会が少なかった。 ※一つ一つの保育の中に、育てたい姿を具体的にイメージできるよう、共通理解を図る。	A
	諸課題に即した内容であったか、説明方法等で教職員の共通理解が図られたか。			
	幼児の発達に応じた経験や体験が得られるような援助や環境構成が計画的に行われていたか。			
	指導計画案を通し、計画的・組織的に目標の具現化が図られているか。			
保育活動	幼児の内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。	B	◎幼児の興味や関心から生まれた好きな遊びの環境構成を職員全体で整えていったことで、個人の主体性や友達との協同的な学びができる場を意図的に作ることができた。 △学びを可視化できるように掲示したり、意欲が湧くような環境を整えたりするなどの努力がタイミングよくできたかは、教諭自身の経験や感覚によるため、適切なタイミングで援助できるように確認し合う場を作っていく必要がある。 ※教師自身が「教育の質」を上げていけるように、様々な研修に参加し、感性を高め職員同士が切磋琢磨し合える場を設けていく。	A
	発達に必要な援助が出来、主体的な遊びが展開できるような環境構成であったか。			
	保育記録を活用し、日々の指導につなげることが出来たか。			
	自然体験や友達との交流を通して、豊かな感性や社会性を培う心の教育が出来ているか。			
運営・組織	教職員一人一人が目標を共通理解し、園経営に参画意識を持ち、目標達成に努めているか。	A	◎各々の職員のキャリアによって園経営への参画意識の度合いに違いはあるが、よりよい教育を目指して自分にできることを行っている。 ◎県警ホットラインを使った実践的な研修を行ったことで、より安全な対応の仕方を学び、現実的な防犯を考えることができた。 ◎防災食の調理の仕方を幼児にも体験させたことで、子供を通して保護者にも防災意識を高めていくきっかけとなった。 △危機管理運営意識はあるが、常態的に職員数が少ないため、役割が決まっても、現実的ではない。 ※各職員が保育中も携帯電話を持つことで、緊急対応ができるため、各自所持するようになった。	A
	全教職員が共通理解し、職務分担を積極的に遂行できているか。			
	教職員が互いに努力を認め合い、励ましあえる明るい職場づくりに努めているか。			
	安全や防災に関する組織を作り常に危機管理運営意識を持って向上に努めているか。			

研修・研究	幼児の実態を踏まえ、内面理解を図った研究・研修を進め、幼児に育ちがあったか。	A	<p>◎幼児の豊かな感性と主体性、協同的な学びが育まれるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら教育に取り組み、情報をHPやクラスだよりで発信してきたことで、教師の教育に対する意識が向上している。</p> <p>◎市内の年齢別研修、特別支援ルーム研修、新規採用教諭の研修の場を本園で行うことで、研修当日だけでなく、研修前後の日々が学びとなり資質向上に繋がった。</p> <p>※今後、教師自身の教育観の中にSDGsを踏まえた考え方で物事を大きくとらえられるような研修も考えていきたい。</p>	A
	多様な障がいの状況に応じた指導内容や方法、教育的配慮が出来るような専門性の向上に努めたか。			
	時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、積極的に園内外・研修会に参加し、自らの資質向上に努めているか。			
家庭・地域との連携	中学校区連携ユニット12の取り組みを踏まえて、保育内容の連続性・系統性など計画的に実施出来たか。	B	<p>◎子育てや子どもの人間関係に悩む保護者が多いので、講演会を2回開いた。講演を聞くことで、今からの時代を生きる子供にとってどのような力をつけておけばよいかを考える良い機会となった。</p> <p>△子供のことで相談を受けるが、実際は保護者自身の心の揺れや世間体、人間関係の悩みが原因であることが多い。</p> <p>※子育ての楽しさを感じられるよう講演会や親子で集える機会を増やしていきたい。</p>	A
	園だよりや、教育方針説明会、個別懇談会、送迎時の話し合い等により、園の教育目標や方針を知らせ、保護者と相互理解するとともに信頼関係を深めているか。			
	子育ての不安や悩みを受け止め、地域の子育てセンターとしての役割を果たしているか。			
行事	各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意工夫され、幼児にとってふさわしい内容であったか。	B	◎2学期に行事が集中するため、音楽会の時期を変更したことで、行事と行事の間にゆとりができ、有効的に時間が使えた。また、園全体で同じテーマにしたことで、若い職員が行事で悩むことも、職員全員で考えることができた。	A
	地域の教育力を活用し、幼稚園の教育活動に活かした計画・実践・評価をしているか。			

#### 学校園関係者評価

<p>○生活発表会の子供の先生の様子を見て、保育活動に関しては、Aと評価したい。保育園等で不適切な保育が問題となっているが、この園では、そのような心配はないと感じる。コロナ禍で、園に来る機会は少なくなっているが、子供からの挨拶や、子供同士の協力し合う姿、自分で選んで自分で考える姿などが見られることから、温かい雰囲気の中で子供たちが育てられている。</p> <p>○幼稚園の保護者の中には講演会を聞くのは初めてという人も多い。講演会で保護者自身が何かを感じて子育てに生かせるようにするきっかけは、園である。「質」の良い楽しい講演会をこれからも開催されることを望む。</p> <p>○子供の安心安全を考えて、危機管理についての報告があった。想定外の災害や犯罪がおこり、職員が少ない中、いかにして子供たちを守るかを考え、訓練をしていることも伝わってきた。防犯カメラの設置や職員数を増やすなどの対応が必要である。</p>	評価
	A